

速 報 欄

553. 613 : 5500. 8 (521. 53)

岐阜縣釜戸深山長石鉱床概査報告

安 齋 俊 男

Résumé

The Preliminary Report on Feldspar deposit of Kamado-mura, Gifu Prefecture.

By

Toshio Ansai

The aplite dikes which occur in the Kamado-mura, Toki-gun, Gifu Prefecture have been mined on a small scale for a long time as ceramic raw material. Owing to the survey carried out by the writer, it is revealed however, that the deposit is worthy of special attention, because it is very large in amount and uniform in character and also in fits for exploration on large scale.

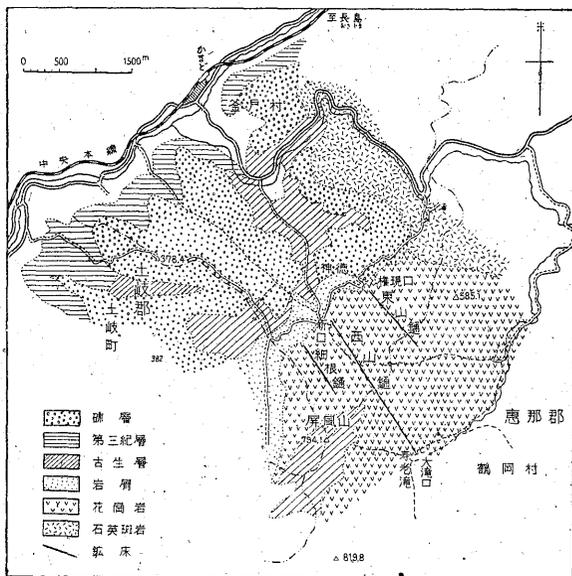
1. 緒 言

此の鉱床は岐阜縣土岐郡釜戸村にあり、所謂「釜戸長石」として明治38年以來採行されて来たが未だその産状鉱量等が調査された事がなかつたので、今回はこれを主目的として調査を行った。期間は昭和23年11月8日から10日迄3日間である。調査の結果は鉱床はアプライトであつて品質が均質で、鉱量も非常に大きい事、故に問題は寧ろ鉱石の利用と開発方法の点にある事等が明かにされた。

2. 位置交通

中央線釜戸駅の南東方約4 km 海拔約600~700mの間にある。権現口、町屋口、本土場口等の鉱床の北端に近い坑口迄はトラック迂廻路約7 km, 南端の大滝口迄は同約12 kmで達する。附近に鉱石水車粉碎工場が散在し、鉱石はそこ迄は馬車又は牛車により、それからトラックに依つて釜戸駅又は多治見、駄知、瀬戸、名古屋等の各工場へ搬出する。

なお、附近の小河川は年間を通じて水量豊富で水車の運轉には充分である。



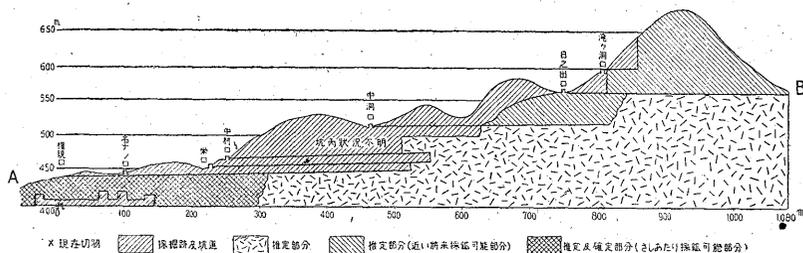
第 1 図

3. 地質礦床

地質は古生層、第三紀層及び閃雲花崗岩から構成され(第1図参照)、鉱床は閃雲花崗岩を貫く数條のアプライト岩脈から成つている。

此の内採行されているのは東山鍾、西山鍾及び細根鍾の3主脈であつて、夫々の詳細は次表の通りである。

何れも殆んど直線的で母岩との境は明瞭である。概ね



第 2 図

膨縮は少いが、70~100 m 毎に脈幅が30 cm 程度に狭まり、時にその部分が1~2 m 間隔の平行脈に分岐、その若干は尖滅することもある。

鉱石は各主脈とも略々均質であるが、現在見られる末端の部分は中央部に比し粗粒で黒雲母を混え、又脈の狭

第 1 表

	走向	傾斜	平均幅	最大幅	延長	露頭から最低坑準迄の高低差
東山鑛	S40°E	70°SW	1.2m	2m	1,100m	270m
西山鑛	S40°E	70°NE	1.2m	1.8m	2,200m	170m
細根鑛	略々 S40°E	?	1.5m	?	数100m	?

つた部分は若干珪質で黒雲母を混え何れも低品位となる傾向がある。即ち、東山鑛の権現口の北西端、西山鑛の中新口の北西端等では黒雲母が見られ、西山鑛成瀬口中部及び露天掘では焼けの附着が見られる。

4. 鑛石

鑛石は白色、淡灰白色のアプライトでその鑛物組成は次の通りである。

正長石(及び微斜長石)	0.5~2mm	30~40%
石英	0.5~2mm	30%
斜長石	0.1~0.5mm	30~40%
白雲母	0.05mm	極微量
黒雲母	0.2mm	低品位鑛中だけ

鑛石の熔融状況(岐阜縣陶磁器試験場による)は耐火度SK 7~8, 熔融片に特に着色, 斑点等は認め難いが白色磁器用としては稍々青味を帯びる傾向あり, 現在のところ洋食器用としてはいさゝか不適當と言われているが, 和食器, 陶器, 硬質陶器用としては優良の実験をあげて

いる。

分析値は次の如くである。(分析者地質調査所, 関根節郎)

5. 鑛量

鑛量を表記すると次の通りである。

上表に示した様に機械設備を施しシュリンケージ採掘法を採用すれば可採鑛量は増加する見込が充分にある。

6. 稼行状況

採掘 鑛床の規模大であるに拘らず, 従来需要の少いこと, 旧套を脱し得ないことゝの爲に原始的な坑内手掘りを行つている。概して両盤の状況がよく, 且つ急傾斜であるから坑木を殆んど要せず採掘條件は良好である。現在東山鑛には7本の堅入れ, 西山鑛には6本の堅入れ坑道があり夫々着脈箇所から鑛押しと切上りで竜頭を残して採掘している。因に往時は露頭から露天掘りを行つたものらしく数多の掘跡を認め得られる。

選鑛 簡単な手選。焼けの附着した鑛石及び黒雲母を伴うものを2級品としている。

粉碎 鑛石は附近の多くの水車工場で600kg ボールミルによつて共磨り粉碎し自然乾燥させる。共磨りにより生じた玉石は一部陶磁器用粉碎用として賣出される。粉末製品は「釜戸石粉」と呼ばれ, ガラス用60メッシュ, 陶磁器用120メッシュ程度である。原石の儘は販賣しない。

事業主 釜戸深山石粉製造販賣組合(組合員66名),

第 2 表

	SiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	CaO	MgO	Na ₂ O	K ₂ O	H ₂ O+	H ₂ O-	Total.
権現口南切羽	76.63	14.29	0.06	0.06	0.15	4.64	4.31	0.03	0.15	100.17
〃北切羽*	75.96	14.37	0.50	0.07	0.13	4.91	3.68	0.17	0.21	99.79
成瀬口切羽	75.99	14.30	0.08	0.05	0.16	3.79	5.26	0.04	0.18	99.67
新口奥切羽	76.46	14.41	0.08	0.06	0.12	4.60	4.13	0.16	0.15	100.02
露天切羽	76.73	13.66	0.12	0.03	0.36	4.98	3.51	0.34	0.46	99.73
製品ガラス用(やゝ低品位)	76.28	14.53	0.28	0.03	0.14	4.03	3.99	0.52	0.32	99.80
製品釉薬用	76.12	14.32	0.08	0.03	0.28	4.43	4.16	0.46	0.56	99.88

* 稍々粗粒で黒雲母を混える。

第 3 表

(単位 t)	確定鑛量	推定鑛量	予想鑛量	推定可採鑛量
東山鑛	1.3×10 ⁴	4.4×10 ⁵	4.5×10 ⁵	5.8×10 ⁴ * 3.5×10 ⁵ **
西山鑛	1×10 ⁵	5×10 ⁵	5×10 ⁵	4.2×10 ⁴ * 5×10 ⁵ **

* 現状の儘の場合, 採掘実収率60%として

** 機械設備により大規模採掘の場合, 採掘実収率80%として

水車工場の所有者によつて構成される。

設備 水車工場80, ボールミル115台, 能力計68,000kg, 運搬用トラック1, 牛馬車, 坑内トロッコ各数台。

勞務者 20名(鑛山関係のみ)

仕向先 主としてタイル工場, その他一般陶磁器, 硝子, 瑠璃等の諸工場。

7. 産額

石粉の生産実績は次表の通りである。

明治 40 年—大正元年	平均年産	150 t
大正 2 年—同 15 年	"	5,300 t
昭和 2 年—昭和 6 年	"	4,000 t
同 7 年—同 10 年	"	5,000 t
同 11 年—同 13 年	"	7,500 t
同 14 年—同 17 年	"	4,500 t
同 18 年—同 20 年	"	3,000 t
同 21 年—同 22 年	"	1,500 t
計		122,400 t

553. 574+613 : 550. 8 (521. 53)

岐阜縣 藏柱白珪石・長石 鉍床

安齋 俊男

Résumé

On Kurahashira Silica-stone, Feldspar Deposit in Kamitakara-mura, Yoshiki-gun, Gifu Prefecture.

By
Toshio Ansai.

1. Geology and deposit:

The deposit is pegmatite about 30 m in diameter in biotite granite and consists of quartz and feldspar parts.

2. Ore:

Quartz of white: 1 st class
Feldspar: 1 st class (30%)
2 nd class (20%)

3. Ore reserves:

Quartz probable ore: 2,000 t

8. 結 言

此の鉍床は長石質資源として極めて大きな鉍量を有し、採掘容易であつて、鉍石は概ね均質、将来の活用研究如何によつては白色陶磁器用原料となし得る可能性もあるので全国的見地から潜在資源として大いに着目す可きものであろう。但し、積極的開発には先ずこれに先立ち鉍石の活用研究を必要とし、大量生産又は機械設備による計画的採鉍法がとらねばならない。

Feldspar probable ore 16,000 t

4. Production:

Monthly average; about 40 tons.

昭和 23 年 11 月岐阜縣吉城郡上宝村の藏柱白珪石、長石鉍床の調査を行つた。その結果をこゝに報告する。

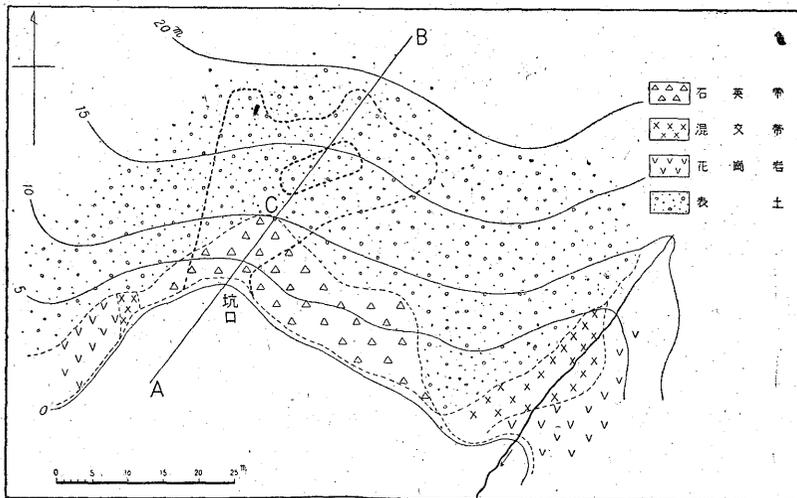
1. 位置及び交通

岐阜縣吉城郡上宝村大字石浦、高山線飛騨古川駅の北東方約 20 km 海拔 900 m の地点にある。駅からトラックを通ずるが、冬季 5 カ月間は積雪の爲不通となる。トラック積場と採掘現場の間 600 m は小型馬車によつて鉍石の搬出を行う。

2. 地質及び鉍床

鉍床の母岩は黒雲母花崗岩であつて、この花崗岩は北方、西方は片麻岩と、東方は中生層と接し南方は第三紀

層に覆われて東西に長く発達する。鉍床は略々その中央部に位する不規則レンズ状ペグマタイトで、南斜面に露出し、南にゆるく(8°~15°)傾斜する。現在坑内外で確認される鉍体の大きさは東西、南北各 25 m 強厚さ 3 m 乃至 7 m である。鉍体の上部は石英帯で東西 20 m 以上、傾斜に沿ひ 12 m が確認され、厚さは 2 乃至 4 m と推定される。この石英帯の下部に長石帯が存在する。東西約 20 m、南北 30 m が確認され、北側の連続は優勢である。厚さは約 3 m と推



第 1 図 藏柱鉍山平面図